

# 平成20年度 佐賀県こども U D 作品コンクール

~ 未来のユニバーサルデザイン ( U D ) をつくるのは君たちだ! ~

「自分の好きな場所で、自分らしく、安心して毎日を暮らしたい。」年齢や性別、障害のあるなし、日本人・外国人など関係なく、人間みんなが共通して持っている願いです。

誰もが安心して暮らせる社会にするには、みんなが使うものを、みんなが使いやすいように、はじめから考えてデザインするという「ユニバーサルデザイン( U D )」の考え方で、

「まち」や「もの」や「サービス」などをつかっていくことが大切です。

そこで、未来の佐賀県を担う小・中学生の皆さんが考えた、みんなに使いやすい「まち」や「もの」や「情報・サービス」、「こころ」など、U D をテーマにした作品を募集・表彰して、社会の多くの人に U D の大切さを知っていただくきっかけにしたいと思えます。

## 募集部門

次の1～3のうちから選ぶことができます。

### 1 アイディア作品の部 きみの考えた U D グッズを描いてみよう・作ってみよう

日頃、みんなが使うもので、こんな工夫をしたら「みんながもっと使いやすいくなる」とか「もっと多くの人が使えようになる」などといった、U D のアイディアをイラストや工作などで自由に表現したもの。

(イラスト...A1～A3程度の画用紙など、工作...幅・奥行・高さの合計100 cm以内を目安に、みんなが分かりやすいように提案してください。)

### 2 ポスター・壁新聞の部 きみの絵で U D を広めよう

年齢や性別、障害のあるなし、国籍などの違いに関わらず、みんながいきいきと安全に暮らしている街や学校、家庭のようすなど、U D をテーマにしたポスターや、U D について学習したり調べたりしたことを壁新聞にまとめたもの。

(A1～A3程度の画用紙・模造紙などを目安にしてください。)

### 3 作文の部 きみのまわりの「暮らしと U D 」について考えてみよう

身の回りの「まち」や「もの」、「情報・サービス」、「意識・こころ」と U D について、体験・経験したことなどを通して気づいたことやあなたの考え・想いなどを、文章で表現したもの。

(400字詰め原稿用紙2～3枚を目安にしてください。)

## 募集期間

平成20年9月1日(月曜日)～12月26日(金曜日)【必着】

## 主催者

佐賀県、佐賀県教育委員会

## 応募資格

県内の小・中学校及び特別支援学校の小・中学部に通っている人なら、だれでも応募できます。応募は、個人・グループ単位どちらでも構いません。

## 応募方法

申込用紙(様式1)に記入して、担当の先生に作品と一緒に提出してください。

## 表彰区分

応募作品の中から、優れた作品を選んで、次のとおり表彰します。入賞された方には、県から連絡して、平成20年3月頃に表彰を行います。

表彰の内容	表彰の数	表彰の方法
大賞(知事賞)	各部門から2点 (小中学生 各1点)	賞状と記念品
優秀賞	各部門から4点 (小中学生 各2点)	賞状と記念品
学校賞	小・中学校 各1校	賞状

## 注意点

作品は、未発表のもの(他のコンクール等に応募していないもの、新聞や雑誌などに発表していないもの)に限ります。応募作品は県や地域のイベントで展示・公表等を行って、より多くの人にU Dを知っていただくために、大切に扱って使わせてもらいます。入賞作品は、作者の名前や学校名、作品の内容を公開して、県の印刷物やホームページなどで紹介します。応募作品は主催者側で大切に扱いますが、天災等の不可抗力によって損傷することがあります。応募作品に関する知的財産権について希望する場合には、応募者自身で権利保護等の手続きをしてください。他の人の作品や文章、写真などを使う場合には、作者の了解をもらってください。ご応募いただいた作品は基本的に返却できませんので、ご注意ください。

## お問い合わせ

分からないことなどがありましたら、佐賀県健康福祉本部地域福祉課までご連絡ください。



佐賀UDキャラクター  
ゆうちゃん

〒840-8570 佐賀市城内1-1-59

Tel / 0952-25-7053 Fax / 0952-25-7264

E-Mail / chiikifukushi@pref.saga.lg.jp

佐賀県 U D ホームページ / <http://www.saga-ud.jp/>

みんなでもっと調べてみよう!

さがユニバーサルデザインラボ

検索



ユニバーサルデザイン(Universal Design: U D)は、アメリカの建築家で工業デザイナーでもあった故ロン・メイスさんが唱えた考え方です。

彼は、彼の仲間たちと一緒に、「年齢や性別、障害のあるなし、使う言葉などに関係なく、誰もができるだけ使いやすいように、はじめから考えて製品や建物、サービスなどをつくるのが必要だ」と社会に呼びかけました。この考え方は、今やアメリカをこえて、日本やアジア、そして世界中に広がっています。